あなたも わたしも みんな鈴鹿市民

～多文化共生社会の実現に向けて～

外国人市民 10,268人（R6.11.30時点）　国籍数 62カ国

約20人に1人が外国人市民

多文化共生とは、国籍や文化の異なる人々が、お互いの文化などの違いを認め合い、協力しながら一緒に暮らしていこうという考えです。本市には60カ国を超える多くの外国人市民が暮らしています。今回の特集では、「誰もがいきいきと暮らせる多文化共生のまち」を実現するために、本市で活躍しているさまざまな人に話を聞きました。

みんなでいっしょに多文化共生

本市は令和6年3月に「鈴鹿市多文化共生推進計画」を策定し、市民や国際交流協会、地域活動団体、事業所などと連携し、多文化共生の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

119番多言語情報伝達訓練

小学校でブラジルの遊びを体験

ごみの出し方など生活ルールの啓発

多言語電子広報
City Guide Amigo Suzuka

鈴鹿国際交流協会（SIFA）

かわで
川出さん
（SIFA）

鈴鹿国際交流協会（SIFA）は、安心して暮らせる多文化共生のまち鈴鹿を目指して、外国人市民からの生活などのお悩み相談や、宿題支援教室などを行っています。各事業は、多くのボランティアに協力をいただいています。さまざまな国籍の方と楽しく交流できますので、関心がある方は、気軽にご連絡ください。

外国籍の小学生への宿題支援ボランティア

問合せ 鈴鹿国際交流協会 ☎383-0724
✉ sifa@mecha.ne.jp

地域で活躍する 外国にルーツがある市民に インタビュー Interview

友達との“出会い”が“支え”に

ルイスさん
（ペルー出身）
来日して31年
【本田技研工業（株）勤務】

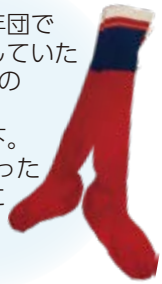
日本人の支え

30年前に7歳で来日したとき、小学校では、同級生だけでなく、先生ともコミュニケーションを取ることができず、毎日、「とにかく友達がほしい」と思っていました。

日本人とつながりを持ちたいと思い、一生懸命、日本語を勉強した結果、次第に友達ができるようになりました。その友達や学校の先生、ボランティアの日本人、スポーツ少年団の保護者の方々と出会い、助けてもらったことが支えとなり、今があります。現在はボランティアや啓発活動などを行い、今度は私が支える側になれるように活動を続けています。

みんなに知ってほしいこと

外国人も日本人も、世の中にはいろんな人がいて、目に見えている部分だけが全てじゃないということを知ることが大切だと思います。見えていないところで支えてくださっている人がいること、努力して頑張っている人がいることを知ってほしいです。



スポーツ少年団でサッカーをしていたときに、友達の保護者からもらった靴下。20年以上経った今でも大切に使っている。

“交流”することでお互いが“分かり合える”

バンダリさん
（ネパール出身）
来日して4年2カ月
【鈴鹿大学在学】

鈴鹿大学での活動

インターナショナルコミュニケーションクラブ（ICC）という留学生が中心になりボランティア活動をするサークルを立ち上げて、海岸の清掃活動や子ども食堂のお手伝いなどをしています。子ども食堂では、母国のダンスや遊びを紹介するなど、多くの人との交流を楽しんでいます。

子ども食堂で
ボランティア活動

大切にしていること

外国人も日本人も、お互いのことを分からない場合が多いと思います。分からないことを伝え合うためにも、「交流」することを大切にしています。

職場の皆さんが僕の先生

アンさん
（ベトナム出身）
来日して1年8カ月
【（株）三重パーツ勤務】

日本に来て苦労していること

一番大変なのは、日本語の勉強です。日本語は、一つの言葉にたくさんの意味があって、覚えることが多くとても難しいです。短い文章や単語は分かっても、長い文章だと分からなくなります。

日本人の支え

一緒に働いている日本人の皆さんが日本語や分からないことをたくさん教えてくれます。休みの日には一緒に遊びます。日本人は、親切で熱心な人が多いと思います。これからも、たくさん話がしたいです。

梱包作業をするアンさん

外国人支援の大きな拠点
～地域の日本語教室～

■ 日本語教室とは、どんな場所？

外国人に日本語で日本語を教える場所です。教室では、さまざまなテキストを使い、楽しく日本語を学べるように支援しています。

■ 日本語ボランティアとはどんな存在？

教室に来る外国人は、「近くの日本人ともっと話がしたい」、「日本語を覚えて、職場で活躍したい」など、いろいろな思いを持っています。ボランティアは、そんな頑張る外国人に少しでも日本語が上手になってもらえるように“お手伝い”する存在です。ボランティアは外国語を話せる必要はありません。

■ 外国人が日本語を学ぶことの重要性

日本人同士も言葉が足りないと、すれ違ったり衝突したりします。それと同じように、日本人と外国人との間に起こるさまざまな問題は、意思の疎通が不十分なことが始まりだと思います。日本語が分かるようになれば、お互いのことや自国のことを伝え合えるようになり、学ぶ楽しさが増し、気持ちよく生活や仕事ができるようになると信じています。

桜島日本語教室
代表 吉田（よしだ）さん

■ 大切にしていること

彼らの状況を自分に置き換えることです。もし私たちが家族と離れ、言葉が通じない異国の地で暮らすことになったら、と想像すると見え方が変わるでしょう。言葉も文化も違う環境で、不自由な生活をしている外国人に日本語を教えることで理解し合えるようになればと願います。

【市内にある３カ所の日本語教室】

- 鈴鹿日本語会AIUEO
  ☎080-3611-8799
- 桜島日本語教室
  ☎090-3836-1774
- 牧田いろは教室
  ☎080-3680-8049

日本語を学びたい外国人が近くにいる方や、日本語ボランティアに興味がある方は、市ウェブサイトをご覧いただき、各教室へお問い合わせください。

日本語教室の様子
（鈴鹿日本語会AIUEO）

市ウェブサイト
外国人のための
日本語教室

使ってみよう！やさしい日本語

やさしい日本語とは

外国人にも伝わりやすい、簡単な日本語のことです。学校や職場など、ぜひ皆さんも使ってみてください。

両親	おとうさん、おかあさん
少々お待ちください	すこしまってください

Instagram

やさしい日本語のインスタグラム（@yasashii.suzuka.official）を運営しています。
鈴鹿の方言や、やさしい日本語への言い換え、世界の料理などを楽しく発信していますので、ぜひご覧ください。

やさしいにほんご すずか
【公式】QRコード

参加してみよう! 多文化共生イベント

国際交流フェスタ「わいわい春まつり」

2025（令和7）年は5月18日開催予定

多文化共生に関する啓発や、国際交流フェスタ「わいわい春まつり」や国際理解講座、友好都市であるアメリカ・ベルフォンテン市との青少年相互交流事業は、多様な価値観や文化に触れたり、学んだりできる機会です。ぜひ、ご参加ください。

チコ
Chicoさん（SIFA）

日本語サロン「おいん」
日本人と外国人が日本語で交流

多文化共生に関するパネル展

【日時】1月10日（金）～16日（木）
【場所】市役所本館 1階 市民ギャラリー

国際理解講座「韓国文化の旅」

参加費無料

【日時】1月18日（土）10時～11時半
【場所】文化会館 2階 第1研修室
【申込】メールでSIFAへ

多文化共生に関するアンケート

2問のみの簡単なアンケートです。

アンケート用QRコード

ベルフォンテン市との交流事業（参加者の声）

てらだ 寺田さん　2023（令和5）年にホストファミリー、2024（令和6）年に派遣生を経験

ホストファミリーになったことと、アメリカでホームステイをした体験は私の人生を大きく変えました。

初めて国境を越えて「世界」を感じ、ホストファミリーと互いの文化を共有する中で、あらためて日本や鈴鹿の良さを再認識することができました。

ホストファミリーとして留学生を受け入れた

派遣先アメリカのホストファミリー（真ん中が寺田さん）

そのだ 園田さん　2011（平成23）年に派遣生を経験

交流事業を通じ、自分から積極的にチャレンジする姿勢の重要性を学びました。

自ら行動することで周囲も快く応えてくれ、自分の世界がさらに広がるという経験を何度もしました。この経験は現在医師として患者さんと向き合う際にも大いに役立っています。

浴衣でホストファミリーと

現在、医師として活躍する園田さん

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

近年、出入国管理及び難民認定法（入管法）の改正などにより、全国的に外国人が増加し、本市でも同様の傾向にあります。そのため、地域や学校、職場などで外国人市民と社会活動を共にする機会も多くなっており、本市に暮らす日本人市民と外国人市民が、手を携え、同じ鈴鹿市民としていきいきと暮らすために、まずはお互いを知るところからはじめることが大切であると考えています。

そのためにも言葉の壁を解消するやさしい日本語を活用しながら、文化や慣習を伝え、互いに支え合う、多文化共生社会をオール鈴鹿市民で実現していきましょう。

鈴鹿市長 末松則子

今回の特集に関するご意見・ご感想は市民対話課へ ☎382-9058 FAX382-7660 shimintaiwa@city.suzuka.lg.jp